

「登録販売者」受験対策講座の実施報告（第2報）

濱 口 な ぎ さ

Report on “Registered seller” exam preparation course (2nd Report)

Nagisa HAMAGUCHI

キーワード：登録販売者、対策講座、資格試験

1. はじめに

登録販売者試験は、図1で示したように長崎県内では毎年500名前後が受験しており、国家試験に準ずる公的な資格として人気が高い。

本コースでは、医療事務に興味を持って入学する学生が多いこともあり、医療関係の資格として将来役に立つという考えから、平成30年度（以下昨年度と記す）より登録販売者受験対策講座（以下対策講座と記す）を実施している。実施初年度である昨年度は1年生4名が受験したが、残念ながら合格者を出すには至らなかった。

そこで、昨年度受講者のアンケート結果を参考に合格者を出すためにはどのような講座にすれば

良いか検討し、令和元年度（以下今年度と記す）、改善しながら実施した結果について報告する。

2. 昨年度の課題と改善点

昨年度受験した4名の学生に対して、試験受験後に行ったアンケートの調査項目は下記のとおりである。

- ①対策講座の日程
- ②対策講座の内容
- ③試験内容で難しかったところ
- ④今後の資格取得希望について
- ⑤全体的な感想

アンケート調査結果と考察は、本学紀要第43号

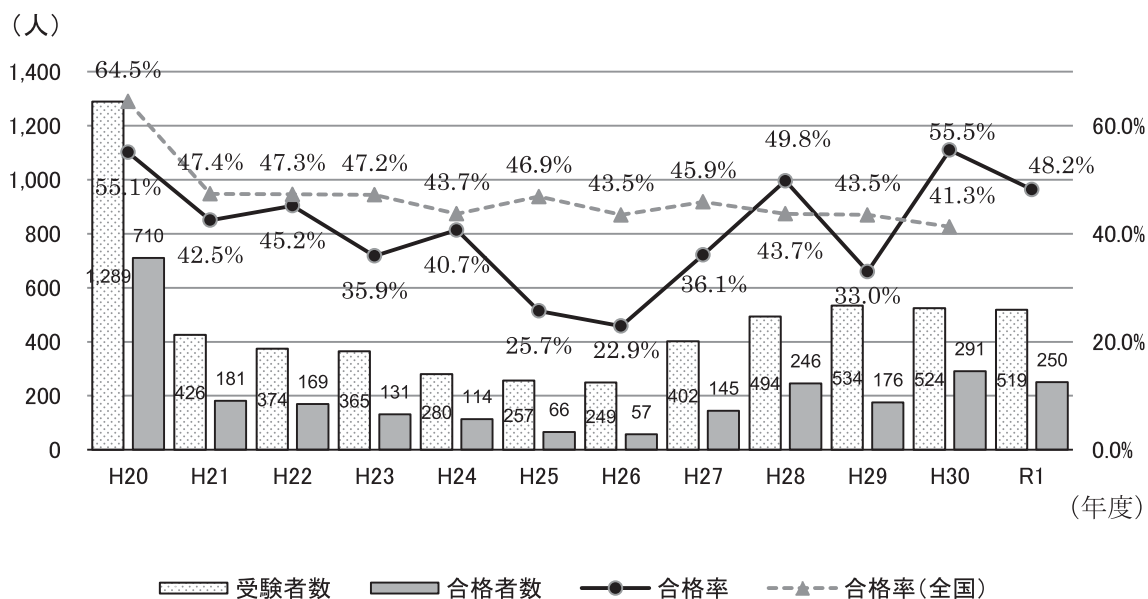


図1 長崎県の登録販売者試験実施状況（厚生労働省医薬食品局のデータをもとに作成）

にて報告した。この結果を参考にして、以下のよう
に今年度の対策講座を実施した。

2.1. 対策講座の日程と内容

昨年度の対策講座は表1で示したとおり、前期
は月1回、後期は月2回実施、合計9回実施した。
アンケート結果では、前期も月2回にして欲しい
という回答が2名からあった。

学生の自主的な学習を期待しても、実践は難し
いことも考えられるため、今年度は表2で示した
ような実施計画を策定した。できるだけ月2回は
対策講座が実施できるようスケジュールを組んだ

結果、16回の対策講座を行うことができた。昨
年度のアンケート結果では、学生が事前に該当箇
所のテキストを読み、模擬試験に取り組む反転授
業形式だけではなく、講義もして欲しいという希
望があった。また、全体的な感想の中で、勉強時
間の確保や計画的に継続して勉強する習慣を身に
付けるのに苦勞し、努力が足りなかった、もう少し
頑張ればよかったとの回答が目立った。

漠然と講義をしても、学生が集中して聞き理解
をしながら進めるのは効率が悪いと考え、事前課
題として過去問を配布し、各自で時間を作ってテ
キストを見ながら解答したものを持ち寄り、対策

表1 平成30年度受験対策講座の実施スケジュール

回	実施日	内容
1	4月20日（金）	ガイダンス、テキスト貸与
2	5月18日（金）	模擬試験「医薬品に共通する特性と基本的な知識」
3	6月29日（金）	模擬試験「人体の働きと医薬品」
4	7月20日（金）	模擬試験「医薬品の適正使用・安全対策」
5	10月17日（水）	模擬試験「主な医薬品とその作用」
6	10月31日（水）	模擬試験「薬事関係法規・制度」
7	11月7日（水）	苦手分野の克服
8	11月15日（木）	苦手分野の克服
9	12月5日（水）	苦手分野の克服
	12月9日（日）	受験日

表2 令和元年度受験対策講座のスケジュール

回	実施日	内容
1	4月5日（金）	ガイダンス、テキスト貸与 過去問（平成29年度）を配布し、各自テキストを見ながら解答してくるよう指導
2	4月26日（金）	「医薬品に共通する特性と基本的な知識」の答え合わせ テキストで該当箇所を確認し、知識を身につける 選択問題の解答のコツを指導 次回使用する過去問を配布し、解答してくるよう指導
3	5月10日（金）	「人体の働きと医薬品」の答え合わせ テキストで該当箇所を確認し、知識を身につける 次回使用する過去問を配布し、解答してくるよう指導
4	5月24日（金）	「医薬品の適正使用・安全対策」の答え合わせ テキストで該当箇所を確認し、知識を身につける 次回使用する過去問を配布し、解答してくるよう指導
5	6月21日（金）	「主な医薬品とその作用」の答え合わせ テキストで該当箇所を確認し、知識を身につける 次回使用する過去問を配布し、解答してくるよう指導
6	7月5日（金）	「薬事関係法規・制度」の答え合わせ テキストで該当箇所を確認し、知識を身につける 次回使用する過去問を配布し、解答してくるよう指導
7	7月26日（金）	夏休みの課題提示、受験の手続きについて説明 ・平成30年度、平成28年度の過去問（長崎県） ・テキストの巻末掲載の過去問（200題）

8	10月4日（金）	後期スケジュール確認、学習の進め方等
9	10月11日（金）	模擬試験（H28年度過去問 午前の部） 「医薬品に共通する特性と基本的な知識」「人体の働きと医薬品」「医薬品の適正使用・安全対策」
10	10月18日（金）	模擬試験（H29年度過去問 午前の部） 「医薬品に共通する特性と基本的な知識」「人体の働きと医薬品」「医薬品の適正使用・安全対策」
11	10月25日（金）	模擬試験（H30年度過去問 午前の部） 「医薬品に共通する特性と基本的な知識」「人体の働きと医薬品」「医薬品の適正使用・安全対策」
12	11月1日（金）	模擬試験（H28年度過去問 午後の部） 「主な医薬品とその作用」「薬事関係法規・制度」
13	11月8日（金）	模擬試験（H29年度過去問 午後の部） 「主な医薬品とその作用」「薬事関係法規・制度」
14	11月15日（金）	模擬試験（H30年度過去問 午後の部） 「主な医薬品とその作用」「薬事関係法規・制度」
15	12月6日（金）	受験にあたっての注意事項、最終確認等
	12月8日（日）	受験日
16	12月13日（金）	各自、試験問題持参のうえ答え合わせ、アンケート

表 3 長崎県の登録販売者試験の概要

試験項目	出題数	試験時間
医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問（20点満点）	120分
人体の働きと医薬品	20問（20点満点）	
医薬品の適正使用・安全対策	20問（20点満点）	
主な医薬品とその作用	40問（40点満点）	120分
薬事関係法規・制度	20問（20点満点）	

講座の中で教員がテキストの該当箇所について詳しく解説し、学生の理解が深まるように心掛けた。

また、昨年度受験した学生全員が、試験内容の中で特に難しいと感じていた「主な医薬品とその作用」については、成分名の覚え方や関連付けの方法などをアドバイスするとともに、テキスト巻末に掲載されている頻出問題を繰り返し解き、用語に慣れ覚えるための学習する時間を確保するように促した。

2.2. 受講者数及び受験結果

今年度、4月5日の対策講座初回には1年生12名が参加したが、夏休み前には6名に減り、最終的に受験に至ったのは4名であった。夏休み中に各自で受験申し込みをしなければならず、そこで断念した学生もいたようである。

途中で脱落した学生の理由は、内容が難しい、興味がなくなった、他の検定に挑戦するので時間が取れない、などさまざまであった。

前述の表2で示した日程で対策講座を実施し、12月8日の本試験受験後、12月13日には試験問題を持参させて答え合わせを行った。正答は長崎県のホームページに公開されたものを使用し、自己採点を行った。

今年度の長崎県の登録販売者試験の試験項目と試験時間は表3のとおりである。

また、合格基準は下記の2つである。

基準1	実施するすべての試験科目の得点の総合計が、満点の7割以上である者
基準2	実施する試験科目別得点が、科目ごとの満点の3.5割以上である者

自己採点の結果、4名中1名が合格ラインに達しており、残り3名中1名はわずかに届いていないことが判明した。各試験項目の平均正答数と平均正答率は表4の通り。

やはり、「主な医薬品とその作用」の正答率が他の項目に比べて36%と極端に低く、「薬事関係法規・制度」も46%と低い結果となっていた。そ

表4 自己採点の結果

試験項目	平均正答数	平均正答率
医薬品に共通する特性と基本的な知識	16.5	83%
人体の働きと医薬品	12	60%
医薬品の適正使用・安全対策	12.3	61%
主な医薬品とその作用	14.3	36%
薬事関係法規・制度	9.25	46%

の反面、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」については、平均正答率が合格基準を大きく超える83%に達していた。また、他の2つの項目についても、60%台とあと一息で合格ラインに達する状況であり、ここでもう少し得点できていれば、合格の可能性があったかと考えると非常に残念であった。

3. アンケート調査結果

自己採点後に、今年度の受験者に対してアンケート調査を行った。調査項目は昨年度と同じである。

対策講座の日程については、全員が今年度の回数・日程で良かったと回答していた。特に、後期は対策講座をほぼ毎週実施したことが良かったようである。

対策講座の内容は、今年度は過去問を使用して分野ごとに模擬試験を行う形式で実施したが、4名中1名が、授業形式で講義を受けた後で模擬試験を受けたいと回答していた。この学生は同時期に他の検定試験の受験を予定しており、自主的に勉強をする時間の確保に苦勞していたことから、このような回答となったようである。

試験内容で特に難しいと感じたところはやはり、全員が「主な医薬品とその作用」を挙げていた。最も範囲が広く出題数も多く、カタカナで似通った成分名、難しい漢字で表記される漢方薬と生薬についても出題されることから、学生たちにとってはかなりハードルが高い試験項目である。理論ではなく暗記が必要な問題では、どのような指導が有効なのか、今後の検討課題となった。

登録販売者の試験取得については、4名中3名が取りたいと回答していた。理由としては「働く上で有利になる」「仕事の選択の幅が広がる」「医

療関係の仕事に就く時に役に立つ」などを挙げている。受験した学生にとっては、今回の試験結果にかかわらず、将来的に取りたい資格であり、この資格に魅力を感じていることが伺える。一方で、対策講座の初回は12名いた参加者が、最終的には4名に減ったことから、資格取得の意欲を継続させることが最も解決が困難な課題であると感じている。

4. おわりに

昨年度から始めた対策講座であるが、2年目にして合格者を出すことができた。これは、受験した学生本人の努力によるところが大きいと思われるが、対策講座の回数を増やし、内容を充実させたことも影響していると感じている。残念ながら4名全員合格には至らなかったが、わずかの差で不合格になった学生もおり、指導者としては至らなかった点を反省するとともに手ごたえも感じることもできた。

今回の自己採点の結果をさらに分析して学生の弱点を把握し、次年度は生活創造学科として対策講座を実施する計画もあるため、栄養士コースの教員とも協力しながら、より効果的な方法を検討していきたい。

参考文献

- 1) 厚生労働省.「試験問題作成に関する手引き」. 2018
- 2) 濱口なぎさ.「『登録販売者』受験対策講座の実施報告」. 長崎女子短期大学紀要. 43. 201~205. 2019
- 3) ユーキャン・登録販売者試験研究会編.「U-CANの登録販売者速習テキスト&重要過去問題集」. ユーキャン学び出版. 2019
- 4) 堀美智子.「7日間でわかる!登録販売者テキスト&問題集2017年版」. 日本経済新聞社. 2017